

# 県オリジナル品種「甲斐ベリー3(ブラックキング)」の安定生産に向けて 農業革新支援スタッフ【果樹】

「甲斐ベリー3」は、果樹試験場がピオーネ × 山梨46号(巨峰 × 巨峰)を交雑した中から選抜した黒色系4倍体品種です。

今回、関係者ととも現地ほ場巡回を行い、県内各地における生育状況などの確認を行いました。巡回の中では、若木であるため玉張りはやや小ぶり傾向でしたが、品種本来の玉張りの良い房も見られました。また、着色の進み具合は順調でした。

今年度は県下統一の目合わせ会も実施され、市場出荷も開始されています。今後も本品種の普及定着と早期の産地化を目指して、関係機関と連携し高品質安定生産とブランド化に向けた取り組みを支援していきます。



# 大豆の生産安定「難防除雑草に対する除草剤検討」 農業革新支援スタッフ【作物】

大豆栽培においては、近年、難防除雑草(マルバルコウ、エノキグサなど)の蔓延による収量・品質の低下が大きな問題となっています。

当センターでは、今年度、生産者ごとの除草体系に新規除草剤を組み入れた、新たな除草体系の現地実証試験を実施しています。7月26日は、北杜市内の3圃場で、大豆除草剤現地試験検討会を開催し、大豆生産農業法人、JA関係者など46名が参加しました。検討会では、新規除草剤の防除効果や薬害の程度、散布方法やタイミングについての確認を行いました。



除草剤現地試験検討会



マルバルコウの発生状況

# 第10回 オーガニックフェスタやまなし ～うちの畑においでよ～

「オーガニックフェスタやまなし」は、有機農業をベースに「人」・「食」・「地域」の環(わ)を創り広げる場として2010年から毎年10月に開催をしています。農の文化をベースに自然と共存し、有機的な考え(自然とのつきあい方、暮らし方、食べ方など)を広げること、子ども達の未来を考え、心豊かな持続可能な社会づくりを目的としています。第10回目を迎える今年も山梨県内の有機農業・環境保全型農業に取り組む生産者の安心安全な農産品や農産加工品、手作り品など、5つのエリアにわかれて展開します。

- ◎会場内でスタンプラリーを行い、抽選で有機野菜などのプレゼントが当たります!
- ◆日時:令和元年10月27日(日) 午前9時半～午後3時半
- ◆会場:甲府駅北口・歴史公園 ◆主催:やまなし有機農業連絡会議
- ◎出展者の募集について  
「オーガニックフェスタやまなし」の取り組みに賛同いただき、共に共感できる活動をしている団体・個人の方々に向けて、オープンに出展者を募っています。※但し、出展・販売条件あり。
- ◎応募締切 令和元年9月30日(月)
- ◎問合せ先:オーガニックフェスタやまなし実行委員会 090-1691-5944(秋山)  
E-mail:organicfesta.yamanashi@gmail.com https://www.facebook.com/OrganicFestaYamanashi



# 山梨県普及センターだより

Yamanashi Agricultural Extension Service Information  
編集&発行:山梨県農政部農業技術課  
〒400-8501 甲府市丸の内一丁目6-1  
TEL:055-223-1619 FAX:055-223-1622  
https://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/  
E-mail:nougyo-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

令和元年9月2日発行  
No.46

# せん孔細菌病の防除をしましょう 農業技術課

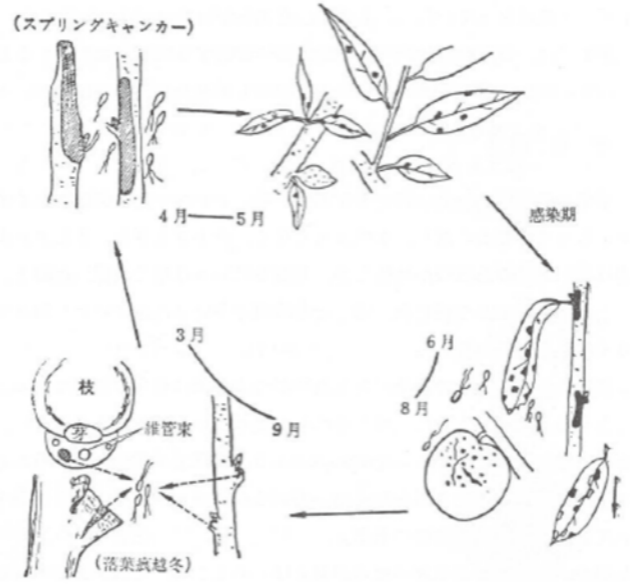
本年は、モモのせん孔細菌病の発生が多く見られました。せん孔細菌病の菌は、秋に落葉痕や皮目から感染したものが越冬し、翌年の春以降に春型枝病斑となります。この病気は、風雨により菌が分散し、葉や果実、新梢へ伝染しますので、表1を参考に秋と春の防除を実施しましょう。

病斑のある枝を除去しておくことも、感染を防止するために重要です。秋季剪定を行う際に、病斑のある枝も併せて剪除し、ほ場の外に持ち出し処分しましょう。

管理をしていない(栽培をしていない)ほ場は、周囲への伝染源となる可能性がありますので、伐採を検討してください。ご不明な点は、最寄りのJAや市町村、普及センター等の指導機関にお問い合わせください。

時期	防除薬剤(100㎡あたり薬量)	散布量	注意点
9月中旬～10月上旬 ※2週間間隔で2回散布する。	ICボルドー412 30倍 (3.3kg) または 4-12式ボルドー液 (硫酸銅400g、生石灰1.2kg)	500㎡ /10a	住宅隣接園では ムッシュボルドー DF(500倍)加用ク レフノン(100倍)を 用いる。 ただし高温時の散 布は避ける。
3月中下旬 (花弁が見え始めるころまで) ※1回散布する。	ICボルドー412 30倍 (3.3kg) または 4-12式ボルドー液 (硫酸銅400g、生石灰1.2kg)	400㎡ /10a	

※今年発生が多く見られた園や、10月上旬の防除後、落葉が遅い場合や台風が接近する恐れがある場合は追加防除(ICボルドー412 30倍または4-12式ボルドー液。住宅隣接園ではムッシュボルドーDF500倍加用クレフノン100倍)を行う。



せん孔細菌病菌の生活史  
出典:農文協編『原色果樹病害虫百科 第5巻』社団法人農山漁村文化協会。



枝における被害



収穫果における被害

## スモモ「皇寿」の産地化に向けた支援 中北地域普及センター



棚仕立ての「皇寿」

県オリジナル品種のスモモ「皇寿」は、スモモ「貴陽」の枝変わり品種として育成され、大玉で糖度が高く、また、酸味のバランスも良く果汁も多いため食味に優れています。「貴陽」と比較して、収穫時期が遅いことから、スモモ栽培の労力分散や出荷期間の延長が望める有望品種として、平成27年度から県内に苗木が供給されています。

中北地域普及センターでは、管内JAと協力し、新品種「皇寿」の早期定着に向けて、育成地の南アルプス市落合に展示ほを設置し、開心自然形仕立ての立木栽培と棚栽培について、栽培管理状況や果実品質を確認しています。

「皇寿」のこれまで2年間の生育状況では、立木、棚ともに結果枝の切り詰め程度など整枝剪定を「貴陽」と同様に行ったところ、開花始めと満開期は「貴陽」と同時期でした。結実状況については、棚栽培において受粉のタイミングと回数を「貴陽」と同様にした場合、着果量の調査で「貴陽」より良好となりました。昨年の「皇寿」の収穫時期は「貴陽」のおおむね20日後となり、果実重と糖度は「貴陽」とほぼ同等でした。

引き続き、栽培特性や果実品質を把握し、管内産地への「皇寿」の定着と安定生産に向けた支援を行っていきます。



収穫期の「皇寿」

## ハウスシャインマスカットの生産拡大を支援 峡東地域普及センター

ここ数年ブドウの販売環境は好調を示し、シャインマスカットの人気がその他品種の販売まで牽引している状況にあります。シャインマスカットの優位性からハウス栽培の面積も年々増加しており、果樹農家の経営安定に寄与しています。

しかし、ハウス栽培では一部で生理障害や品質のバラつき等の課題があるため、関係機関と連携しながら優良事例に基づく栽培基準の徹底を図ってきました。

本年度はさらなる高品質生産に向け、未熟果粒混入症に対する湿度管理やハダニ類の被害対策等を重点に取り組みました。今後は半加温栽培においてICT技術により収集したデータを活用し、ハウス栽培における安定生産を可能とする加温体系のブラッシュアップに取り組んでいきます。



ハウスシャインマスカットの高品質・安定生産

## 地域活性化に向けた加工品開発支援 峡南地域普及センター

峡南地域普及センターでは、これまで市川三郷町の甘々娘や南部町の栗、アマゴ等を使った加工品の開発支援を行ってききました。

今年度は、市川三郷町の柿を使った「柿酢」の開発を、県事業「美味しい甲斐開発プロジェクト」を活用しながら支援しています。市川三郷町の高田地区は、ころ柿の産地とされていますが、高齢化、担い手不足等により畑が遊休化してきており、柿の生産や利用が以前よりも少なくなっていました。そこで、柿の再利用、再発信をするべく、「柿酢」として付加価値をつける取り組みが始まりました。

この取り組みが、地域の活性化につながっていくよう、引き続き支援を行っていきます。



柿の収穫



発酵中



上澄みを取り再度発酵

## 富士東部地域管内の果樹振興への新たな取り組み 富士・東部地域普及センター

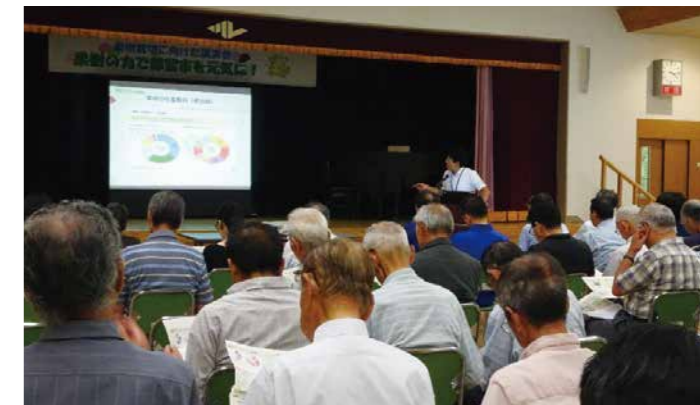
都留市では、「道の駅つる」の開設により、様々な農産物への生産意欲が高まっています。7月24日には、都留市主催により当普及センター運営協力のもと「果樹の力で都留市を元気に!」をテーマに果樹振興セミナーが開催されました。当普及センターでは、セミナーにおいて野菜経営や水稲経営に果樹を導入するための栽培上のポイントや複合経営の組み合わせ方について提案をしました。

これにより、農家の経営改善と果樹導入の意欲が高まっています。新たに果樹栽培を希望する農家には、個別巡回を実施し、技術習得に向けた支援をしています。

当普及センターではこれからも、富士東部地域の特徴を活かした農業振興と経営規模を拡大する農家、新規就農者等農業の担い手を確保する取り組みを支援していきます。



都留市で7月に初収穫となったモモ



果樹振興セミナー